

農 大 情 報

平成24年 3月号

集発行：愛知県立農業大学校

平成23年度卒業式を行いました



平成24年3月6日多くのご来賓の出席を賜り、平成23年度卒業式が行われました。今年度の卒業生は農学科84名、研究科18名です。農学科では72単位2280時間以上の課程を修めた者に専門士の称号と卒業証書が授与されました。研究科では90単位2400時間の課程を修めた者に卒業証書が授与されました。

卒業生の進路は、農学科では農業生産法人等への就職を含む就農28名(33%)、進学16名(19%)、就職等40名(48%)です。研究科では就農5名(28%)、就職等13名(72%)です。(今井吉晴)

プロジェクト・意見発表全国大会に参加

平成24年2月21日～23日に東京で開催された「農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会」に本校農学科の学生4名が参加しました。本大会には全国45の農業大学校から277名の学生が参加し、プロジェクト発表や意見発表、情報交換会等が行われました。

本校からはプロジェクト発表の部に養豚・養鶏専攻2年生の鳥居浩弥君、意見発表

の部に、果樹専攻1年生の吉川悟君が出席し、自分が行った卒論や将来のビジョンについて発表を行いました。

2名は1月19日、奈良県で行われた東海・近畿ブロック大会で出場9県中、鳥居君2位、吉川君1位と優秀な成績で勝ち抜き、ブロック代表となり全国大会に出場しました。

鳥居君は「もみ殻に替わる新しい巣箱の敷料の検討」と題し、平飼い鶏舎の巣箱の新しい敷料の可能性について発表し、吉川君は「地域に根ざしたナシ経営」と題し、将来就農したときにどのような戦略で、外国産農産物と戦っていくかについて発表しました。残念ながら2名とも上位入賞は逃しましたが、大観衆の前で堂々とわかりやすく発表した姿は立派でした。

また、全国の農大生との交流で大きな刺激を受けることができました。(成瀬俊一)



研究科農家等派遣実習報告会を開催

3月9日、長久手キャンパス研修館において、農家等派遣実習成果についての報告発表を行いました。この農家等派遣実習は、教育部研究科一年9名が昨年10月から5か月間行ったものです。

農家等派遣実習は、将来の進路選択に資



する経験・見識を磨くことを目的としています。

派遣期間中は学内でフォローアップゼミを定期的に行って派遣学生を支援してきました。

本年度の派遣先は、農業生産法人、農業関連資材商社、量販店、種苗会社、卸売市場、農協で、最近の研究科卒業生の就業先にほぼ相応するものでした。

9名の学生は会社・団体組織のなかで社会の仕組みを理解し、就業のイメージをつかみ、実際の就業体験を通じて大きく成長をしました。また、この貴重な体験から、自らの課題を認識し、さらに必要な能力を身につける契機とすることができました。

(渡邊俊介)

中南米行政職員が視察に訪れる

3月9日、国際連合地域開発センターが実施する研修で中南米の農業開発に携わる行政職員が本校の教育内容や教育施設の視察に来訪されました。参加者は、アルゼンチン、ボリビア、チリなど8カ国の13名で、それぞれの国の行政機関で農業技術指導や農村振興、農業大学で農業振興や農業教育に携わる方々でした。

本校の目的や教育内容、学生の状況、卒業後の進路、県農業振興との関わり、運営や予算などを説明し、校内見学ではイチゴハウス、花きハウスなどを紹介しました。

教育内容や栽培技術などに関心が高く、多くの質問がありました。花きハウスでは切り花専攻の学生達とひとときの交流をして、農大を後にされました。(虎澤明広)



進路指導セミナー「面接試験の攻略法」を開催

3月8日、1年生を対象に進路指導セミナーを開催しました。今回が本年度計画した5回のセミナーの最終回となりました。講師は刈谷ハローワークから、大卒就職ジョブサポーターの竹本美佐代氏を招き、就職、進学等で面接試験対応が必要となる学生75名が参加しました。

企業の採用担当者はどの点を重視して面接しているか、実際の面接事例（良い対応例と悪い対応例）についてビデオによる学習を行い、その後講師からポイントの再確認が行われました。参加者は真剣に受講し、来年度採用に向けた取組を強化する機会となりました。(濱田玲子)

平成23年度「緑の学園研修」の成果

本校では毎年度、農業理解と就農意欲の高揚を目的とした「緑の学園研修」を実施しています。本年度も6回開催し、高校生を中心に123名もの方々に参加していただきました。

このうち農業関係高校3年生を対象とし

た1泊2日研修では、26名が参加しました。研修では農大の概要説明や校内見学の後、各々が選択した2つの専攻実習を体験し、農作物や家畜の生産・飼養方法や学習内容などを学びました。広大なほ場や本格的な温室、畜舎で実習主体の教育に取り組んでいる本校の特徴を理解してもらいました。

また、夏休み期間中に4回、冬休み期間中に1回実施した高校生及び既卒者を対象にした1日研修は人気が高く応募者が多かったため定員80名を97名まで増やしました。参加者は、希望する体験区分に分かれ、農作物の管理作業や収穫調整作業、牛の給餌作業等を行いました。慣れない農作業でしたが、真剣に取り組み、とても良い経験ができたという感想が聞かれました。

来年度、これらの研修が契機となって、参加者から48名が本校農学科に入学します。(玉越千賀子)



花き温室にヒートポンプを導入

平成24年3月にコショウラン温室、観葉温室及びバラ温室にヒートポンプ等を導入しました。平成23年度地域グリーンニューディール基金充当事業（二酸化炭素削減に資するための事業）の交付を受けて整備したものです。

ヒートポンプは、熱交換の仕組みによって低温と高温の熱を移動させる技術で、重油価格が急速に高騰した平成20年頃から注

目され、施設園芸の生産現場へ急速に導入が進んでいます。

本校では、温室の暖房をA重油を焚く温湯暖房のみで行ってききましたが、導入後はヒートポンプと温湯暖房を併用して行うこととなります。試算では、年間27.4トンの二酸化炭素排出量を削減できる見込みです。

農業の生産現場で実際に導入が進んでいる最新の省エネ技術を専攻実習に取り入れることで魅力的・実践的な教育が実現でき、学生の学習意欲向上が期待されます。

(新井和俊)



観葉温室に導入したヒートポンプの室内機(左側)、室外機(右側)

平成23年度最後の農業機械研修開催

本年度2回目のフォークリフト研修を3月14日から3日間実施し、これをもって、農業機械研修はすべて終了しました。

研修部機械グループでは、大型特殊免許研修(農耕車限定)を始め、大特トラクタ作業研修、小型農業機械研修、けん引免許研修など9講座の農業機械研修を行っています。本年度は延52日間実施し、受講者数937人と計画人数を大きく上回りました。なかでも大型特殊免許研修では、受付開始日に定員に達してしまい、キャンセル待ちの状態になることもたびたびでした。このように、本校の農業機械研修への農業者や学生らの期待はたいへん大きいと受け止めております。(加藤恭宏)